

仙獄学艶戦姫ノブナガッ! 弐

北宮学園生徒会長選挙戦

斐芝嘉和
挿絵 / SAIPACo.

あとみっく文庫 / PDF立ち読み版

宇佐美[奈々]定満

熟れた豊富な肢体が魅力的な美女。景虎の参謀を務める。能力は相手の能力の種類・強さを測る〈スガウタシ〉。



北宮学園

KITAYAMA GAKUEN

長尾[美姫]景虎

「越後の虎」の異名を持つ、ちょっぴりキツメのお嬢様。能力は目視した相手と自分の位置を変える〈シャッフル〉。



三浦[ウィル] 按針

留学生。ある目的を持って景虎たちに近づく。能力は超能力を封じる〈首輪〉の精製。



松永[サキ] 久秀

生徒会執行部の一人。表沙汰にできないような仕事を受け持つ。能力は手に握ったものを即席の爆弾にする〈E・E〉。



織田[希莉子] 信秀

信長の姉で、西開学園の生徒会長。現在療養中……。能力は信長と同じ〈生体スタンガン〉。



西開学園

羽柴[瑠美] 秀吉


信長率いる応援団のマネージャーにして、信長の愛人。能力は他人にまで幸運をお裾分けする〈極度の幸運体質〉。



織田[希莉香] 信長


言わずと知れた主人公。美人だが、変な言動が目立つ。今回、出番は少なめ? 能力は触れた相手の気を乱す〈生体スタンガン〉。





今川【アリス】義元

晴信と同じく、北宮三大美女の一人。高飛車なお嬢様。能力は射撃系の武器は百発百中になる〈与一〉。



武田【柚葉】晴信

北宮三大美女と称される女生徒。先の水着大戦以降、寮室に引き籠もりがちに。能力は掌から気を流して治療する〈手翳しヒーリング〉。



北条【鈴音】氏康

晴信、義元と並ぶ北宮三大美女。おっとり系の大和撫子。能力は身の周りの粉体を操る〈粉体操作能力〉。



松平【美幸】竹千代

義元配下の男の娘で、メイド部隊を仕切っている。能力は周囲を虜にする強烈な〈カリスマ性〉。




真田【凜】幸村

晴信の幼馴染みである麗人。晴信を慕い心配している。能力は紙に様々な能力を付与して使役する〈十勇士〉。



聖ジョウト学園



天草【茜】四郎

春に入学したばかりの新生入生。水着大戦で変な性癖に目覚めたようだが…。能力は様々なものを呼び出す〈召喚術〉。



エリザベート【エマ】バートリ

三回生。ちっこい外見とは裏腹に性格はDS。能力で縄を自由自在に操ることができる。



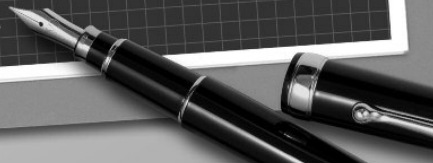
明智【沙耶】光秀

生徒会役員。真面目な性格が災いして、水着大戦での痼態がトラウマに。能力はその場その時の最善の行動が閃く〈天啓〉。

仙獄島全体図

SENGOKU ISLAND INFORMATION MAP

- ◎面積:約80平方km(八丈島より少し大きい)
- ◎人口:約7,000人(うち、学生約5,000人)
- ◎原集落は島の東側に集中(須佐・武速地区)
- ◎学園周囲には熱帯性のジャングルが広がっている。



調査報告書

太平洋に浮かぶ仙獄島に存在するみっつの学園——
西開学園、北宮学園、聖ジョウント学園。そこでは超能力を持つ少女少女たちが
学生自治のもと、青春を謳歌していた。
西開学園の問題児にしてミス仙獄島の織田（希莉香）信長もそのひとり。
そんな彼女に、北宮学園のお嬢様・今川（アリス）義元から挑戦状が届く。
それこそが、学区境界線上に新設された聖ジョウント学園の温泉の所有権を巡る
「大戦」開始の報せだった。勝負内容は「水着美少女コンテスト（団体戦）」。
ここにみっつの学園による三つ巴のバトル——「第一次水着大戦」が始まったのである!!
しかし平和なはずのミスコン大戦は、水着美少女が縄で緊縛されたり、
謎の触手生物が現れたり、思わぬ方向へと進んでいく。
次々と襲ってくるエロピンチに超能力（生体スタンガン）で抵抗を続ける信長だったが、
触手生物の全身愛撫とアナル責めを受け、さらにはふたなり化で
男の快感を植え付けられ、ついには快楽に堕ちていく——。
全員が快楽に染められたかと思ったそのとき、信長の姉・織田（希莉子）信秀が
颯爽と現れ、天草（茜）四郎に憑いた謎の存在を取り払う。
それにより、淫獄と化した水着大戦は終結を迎えたのだ——。



No.

DATE



(汚い、汚い……汚いッ！)

必死に首を振り、押さえつけられた手足を狂ったようにくねらせて、頬に感じる棒状の物体から逃れようとする。

「お？ コレがなんだか知ってる反応だな」

「ビクビクして、面白おもしろえ。ほら、こつちにもあるぞ」

長い髪を振り乱し、必死にもがくお嬢様を見下ろして、男たちが笑った。競うようにペルトを緩め、黒光りする淫棒を自慢するように振り立てて――。

「ンひっ!! ひ……ひいいっ!」

景虎のツルンとした額に、あどけない乳房に、柔らかな腹に、震える太腿に、紅く輝く亀頭をグリ、グリ、と擦りつける。

「や、やめて……やめてえ!」

口を塞がれたお嬢様の代わりに、定満が叫んだ。先ほど言われた戯ざれ言ごとをなぞり、

「お……お、オチンチンなら、私が舐なめます……お、おしやぶり、させてえ!」
卑猥ひわいな言葉を口にする。

「いけませんなあ、定満さん。貴女みたいな知的な美人に、そんないやらしいセリフはちつとも似合いません」

苦笑した按針が言い――だが、ニヤリと唇の端を吊り上げてペニスを振り出す。

ソレは異様な男根だった。長さは二十センチくらい、太さは単一電池よりやや太く——赤黒く染まつてヌラヌラと照り光つているところまでは普通だが、肉茎にいくつもの小さなコブが浮いている。カリ首のすぐうしろに、ポコ、ポコ、ポコ。裏筋にも、淫茎の背にも、互い違いに小指の先程度の膨らみがある。

（し、真珠……というモノかしら？）

かつてお耽美系の同人マンガ家として密かに大活躍していた美女は、その方面の知識もある程度は持っていた。が、本物を——生の淫棒を見るのは初めてだ。真珠入りペニスとというのがコレなのか、それとも金髪碧眼の人々は元からこういう男根なのか、分からない。異形の逸物を見せつけられて呆然とした定満を見下ろし、按針は得意げに笑った。

「でもせっかくですから、お言葉に甘えましょう。さあ、貴女の大好きなオチンチンですよ。好きなだけしゃぶりなさい」

「ンあっ!? う……ンん、むう……ッ！」

大人びた美女の口に、力任せにねじ込まれる赤黒い肉棒。反射的に閉じようとした唇が、小さなコブを浮かせた剛直にこじ開けられる。押し返そうとした舌は生臭い肉瘤を止めることができず、一気に喉まで突き込まれてしまう。

「おお、気持ちいい。お嬢様の膣ちゅうと、是非とも比べてみたいですなあ」

「ン……ンんっ!?」

按針の意味ありげな視線を辿つて目だけを向けると、ふたつ揃えて真上に引き伸ばされた景虎のほっそりとした美脚から、クルクル丸められた白い下着が抜き取られるところだった。ほどよく引き締まった小振りな尻が中に浮き——すぐにポテツと、床に落ちる。

「く、うう……ッ！」

痛みではなく恥辱に唇を噛み、気丈に男たちを睨み上げる景虎。裸にされた尻に、床板の冷たい硬さを感じる。最後の砦を奪い取られて完全に無防備になつた秘処は、膝を摺りあわせて太腿を閉じ、なんとか男たちの視線から隠しているつもりなのだが——。

「おら、なに股閉じてんだ!! テメエは肉穴にしか価値のねえバカ女だらう!」

荒ぶる男たちに濁声だみごえで罵倒され、力任せに開かれてしまった。色も艶も、ほかの柔肌とまったく変わらない幼気な肉畝を露わにされて、

「ンあ……あ、あううっ!」

膨れあがる羞恥に耐えきれず、お嬢様はどうとう、ギユツと目を閉じてしまう。

(負けない……負けたくない……負けてはダメ……なの、にい……ッ!)

ハの字に開かれたほっそりとした太腿に男たちの膝が乗せられ、恥ずかしい場所が隠せなくなつた。くねる柳腰に武骨な手が触れ、柔らかな下腹にゴツゴツとした指が這う。内腿に貼りついた手指は蜘蛛のように蠢うごめき、繊細で敏感で大切な割れ目に、ソロリ、ソロリと近づいてくる——。

(か、景虎様……!)

——と、こちらは按針に口を犯されている定満。

舌の上にズッシリ重い肉塊が、熱くヌルヌルした口唇粘膜の感触を愉しむように、わずかに捻ねじれながらゆつくり前後。押し潰された味蕾みらいに甘辛さを感じる。男根の味が染み込んでくる。上顎がたくましい亀頭に押し上げられ、頬の内側の粘膜がコブを生やした淫茎に押し退けられ——。

(汚い、おぞましい……お、お、オチンチンが、私の口の、中に……!)

知識としては知っている。同人マンガで描いたこともある。

だが、アレが——イラマチオという行為が、こんなにも辛く、気持ち悪く、屈辱的なモノだったとは。

生臭い肉塊に喉奥を抉えぐられるたび、自尊心が削り取られる。

男を悦よろこばせるだけの玩具おもちゃに堕おちていくような気がして、心が震える。

そのすぐ傍、冷たくて硬い板張りの床に仰向けに押さえつけられた景虎も、美人参謀と同じ恐怖、恥辱を、ヒシヒシと感じていた。

「可愛いなあ、景虎ちゃん。赤ちゃんみたいなオマ○コでちゅねえ」

ニヤついた男たちが額をぶつけあうようにして、幼気な割れ目を覗き込んでくる。そればかりか武骨な指をワキワキさせて、大切な場所へ伸ばしてくる。

(ダメ……やめて、触らないでッ！)

こらえきれずに涙をこぼすと、頬にグリツと、熱い弾力が擦りつけられた。キラキラ光りながら転がり落ちる小さな滴が、真つ赤な亀頭に拭い取られたのだ。

嫌悪に息を詰まらせる間も、いまのお嬢様には与えられない。

「おお、プニプニだ。柔らかいなあ、景虎ちゃんのおマ○コ」

芋虫のように蠢く指先が、お嬢様の薄い肉土手に四方から群がった。滑らかな柔肌を押し、揉み、歪め——。

(うう……ああ、ダメ、やだ……開かないでッ！)

微かに熱を帯びた肉畝が、左右に大きく開かれる。

流れ込んでくる空気に、繊細なピラピラがくすぐられた。鮮やかに紅く薄い耳朶のようにあどけない花卉の奥、小指の先さえ呑み込めそうにないほど幼気な花芯が、男たちの視線を直に浴びて羞じらうようにキュツウツと窄む。

イチゴゼリーののように紅くヌラヌラと光る、透明感のある粘膜だ。小さな淫唇は薄く、縁もほとんど波打っていない。あどけない膣穴の少し上では針の穴ほどの尿孔が必死になつて口を閉じ、甘酸っぱい潤みに沿つてさらに視線を上げていけば、肉畝が交わる辺りにほっそりとした鞘があり、米粒大の淫核がほんのわずかに顔を覗かせている。

「見るよ、一丁前にヒクヒクしてるぞ」

「イヤそんな顔してるが、ちゃんと潤んでるじゃないか」
嘲り声あざけを浴び、こらえきれずに臉を閉じる景虎。

（う、潤んでるのは単なる防衛反応よ。ほかにどんな意味があるというの!!）

己の身体の淫らな反応を恥じ、震える心に言い聞かせるが、処女の秘裂が濡れているのは男たちの超能力のせい。ただでさえ感じやすい淫唇やクリトリスに、心地よい気の波動が注ぎ込まれている。見られているだけで熱く潤み、さらに感度を増して、甘酸っぱい蜜をじゅわ、じゅわ、と滲ませてしまう——と。

口を塞いでいたガムテープが、なぜかベリツと剥はがされた。

慌てて丸められたハンカチを吐き出し、ケホ、ケホ、と咳き込んだお嬢様は、

「……こ、この……無礼者ッ！」

周囲の男たちを睨み上げ、凜とした声で叫ぶ——いや、叫んだつもり。

しかし纏もれる舌と震える唇が紡いだのは、

「お、おま〇こお！」

という、卑猥な言葉だった。

（えっ!! そんな、どうして……だれかの超能力!!）

「ちんちん、ふえら、おま〇こ……おっばいいい！」

思いとはまったく違う下劣な単語が、脈絡みやくらくもなく口から飛び出す。

「どうしたんだお嬢様？ まだ犯^やつてねえのにおかしくなっちゃったのか？」

「おま○こ、しえつくす……らいすき！」

「ほう？ こんな赤ちゃんみたいなおま○コなのに、オチンチンを挿^い入れて欲しいのか。意外にいやらしいんだな、景虎ちゃんは」

「ふえら、あなる、しえつくす……すきい！」

——ダメだ。声の限りに罵倒しようとしても、眉を逆立てて否定しようとしても、甘く鼻にかかった淫らな媚声になってしまう。喋らなければよいようなものだが、こんな卑劣な男たちにされるがままというのは自尊心が赦さない。嘲笑われたらついカッとなって、

「おま○こ、おま○こ……らいしゆきいっ！」

舌っ足らずな声で叫んでしまう。

（こ、こいつら……絶対に赦さない……赦さないんだから！）

唇を噛み、ギョツと瞼を閉じて、顔を背けるお嬢様。

一方、按針に無理矢理口を犯された定満は——。

「ンお……ンく、んちゆ……」

おぞましさに涙しつつ、必死になって、不器用な口唇奉仕を始めていた。ニヤついた金髪青年から「私を気持ちよくしてくれたら終わりにしましょう」と提案されたのだ。

「どうしました、定満さん？ もっとよく舌を使って……ダメですねえ、全然気持ちよく

ない。そんなことでは、お嬢様を助けられませんよ」

戯れる愛犬に応えるような手つきで、薄く笑った按針が美女の頭を撫でる。

なんとという恥辱、なんとという侮辱——だが、どんなに腹立たしくてもやめるわけにはいかない。背後では大切なお嬢様がむくつけき男たちに群がられ、穢れなきその身体を蹂躪されようとしているのだから。

(それにしても……太い。これでは、舌が……うう、顎が痛く、なってきた……)

卑猥な同人マンガでフェラシーンも描いたことがある定満だが、描くとするとは大違い。顎関節が痛くなるほど大きく開けているというのに、口腔は熱くて太くて長い男根に占拠されている。余裕なんてほとんどない。ずっしり重い牡肉に押し潰された舌をどうにかくねらせ、淫棒の側面を舐めようとすれば、反対側の側面に頬の内側がグリグリ押されてしまう。肉茎に生えた小さなコブが柔らかな粘膜に喰い込み、金属の塊が触れているような苦さがジワツと染み込んでくる——と。

「……もういいですよ、定満さん」

頭を軽く叩かれ、額を押された。

「ぶはッ！ で、では、景虎様も……」

ようやく赦してくれたのか、と期待を込めて見上げたのだが、もちろん違う。

「貴女がノロノロしているから、時間切れです。ほら……」

按針に促されるより先に、悲痛な悲鳴が社会科準備室に響いた。

ハッと振り返った定満は、

「あ……ああ、やめてえ——ッ！」

弾かれたように飛び出しかけ、男たちに手足を掴まれ、組み伏せられる。

恐怖に目を見開いた景虎の、蒼白く輝く細い身体に、不躰に覆い被さった大柄な少年。ほっそりとして瑞々しい美少女の脚線美は別の男たちに掴まれ、これ以上ないほど大きく左右に開かれて——。

「うへへ、お嬢様の中にオレの太いのをぶち込んでやるからな」

いやらしい指と淫らな超能力によつて愛蜜を滲まされた幼気な秘裂に、紅く輝く亀頭が慎重に押しつけられる。ぬめり光る淫唇がくちゅり、と微かな音を立てて歪み——。

「おま、おま○、こ……ああダメ、ダメええっ！　そ、そんなの……入らないいッ!!」
下劣な超能力から解放され、ようやく本当の悲鳴をあげて、薄い胸を反らすお嬢様。
だがもう遅い。

狭くキツイ処女穴に、赤々と猛る肉のクサビがグリ、グリ、グリ——。

「ひ……ひあ……ひぎいいッ！　裂ける、裂けちゃう……痛ああああいいいいッ！」
グじゅちッ！

処女膜を切り裂いて、青筋を立てた淫棒が力任せに潜り込んだ。

(こ、こんな卑劣な連中に……私の、大切な……初めて、が……)

身体以上に心が傷つく。秘裂以上の激痛を、小さな胸の奥に感じる。

だが、哀しみを噛み締める余裕も与えられず——上にのしかかった少年が、ズン、ズン、と力強い律動を開始。

「ふきッ!? うぎ……い、イひ……いひいいい……ッ！」

勢いをつけて胎内へ押し入ってくる巨根に、悲鳴をあげ、涙をこぼすお嬢様。身体が真つ二つに裂けてしまいそうなくらい、痛い。指すら挿し込んだことのない大切な、そして繊細な粘膜穴が、見知らぬ男の汚らわしい淫棒に、抉られ、穿たれ、切り裂かれ——。

ぐちゅり、ぐちゅり、ぐちゅり——初めて男を受け入れた膣穴が、荒々しく出入りする淫棒に合わせて柔らかく歪む。色を失うほど伸びきった粘膜が為す術もなく捲れ返って、卑猥な音とともに鮮血の混じった愛液を噴きこぼす。

「ひぎ、ひあ、ひいいッ! さ……定満……定満ううっ！」

ついに景虎は、叫んでしまった。

涙に潤んで舌の纏れた、弱々しい幼声で。

生徒会長になるのだから強くなければ、簡単に泣いたりしないように、だれの助けも借りないように——ずっと張り詰めていた心の糸がプツと切れて、

「助けて……定満ううっ！」

大粒の涙をポロポロこぼしながら泣き叫ぶ。

「痛い、痛いよお！ オチンチンが、オチンチンが……わ、私の、お腹の中でええ……グリグリしてる、動いてるうっ！ 助けて、定満う……お願い、さだみつううっ！」

「ああ、ああ……景虎様……ッ！」

助けを乞われた美女も、泣いていた。

長く艶やかな黒髪をおどろに乱し、シャツからこぼれ出た乳房を激しく揺らして、なんとか助けようと無我夢中でもがく。

だが、その手足は男たちにしつかりと掴まれていた。肩を押さえられ、髪を掴まれて顔を上げさせられて、

「ようくごらんなさい、定満さん。これが我々の力です」

耳元に按針の囁き声。

「破り、組み伏せ、貫き、犯す——いまその被害に遭っているのは貴女の大切なお嬢様ですが、もし我々を仲間にしてくださるなら、この力をほかの生徒に対して使います。さあ、どうします？ 我々を仲間にするか、それとも拒むか……」

「……拒みます！ 当たり前でしょう!! 景虎様に、あんな……あんな……」

「……困りましたねえ、まだ分かっていただけないようだ」

薄笑いを浮かべた按針が身体を起こし、大きく頷くと、待つてましたとばかりに獣のよ

うな男たちが歓声をあげた。

「お嬢様の口マ○コ、いただき！」

「おい、その前に身体を起こせよ！ これじゃあケツにぶち込めないだろ！」
汚らわしい欲望を全開にして、啜り泣くお嬢様に群がり、犯す。

「か、景虎様……！！ ああ、ああ、ああ……」

愕然とする定満も、ノンビリとはしていられなかった。

「按針さん、俺、こつちのお姉さんのほうが好みなんだけど……」

「あ、俺も！ 外出しするときはパイズリでつて決めてるんで」

「仕方ありませんねえ。好きにしなさい」

苦笑した按針が離れ——野獣の中に取り残される定満。

「ああダメ……やめて、いやあつ！」

「助けて、助けてよお……さだみつううッ！」

非力な美女と美少女の、涙に潤んだ悲痛な声が、狭く薄暗い社会科準備室に何度も何度も、虚しく儂く反響する——。

* * *

一時間か、二時間か——気がつけば、カーテンの隙間から差し込む陽射しが斜めになり、鮮やかなオレンジ色になっていた。



夕暮れ時の物悲しい空気に溶け込みつつ、

「……」

生氣の失せた顔で窓際の壁に背を預け、力なく座り込んでいる人影がふたつ。細い肩に互いの頭を預け、長い髪を絡めあい、触れあう指先をどちらからともなく握りあい――。

ふたりとも、もちろん細いうなじに黒革の首輪をはめられたまま。表情を失った頬やおどろに乱れた黒髪に、べつちよりと粘ついた青臭い汚液。閉じることを忘れた唇の端からは涎に薄められた精液が糸を引いて垂れ落ち――ハの字に開いた太腿の間、爛れたように紅く染まったままの秘裂や痛々しく捲れ返った尻穴からは、いままなお、コポリ、コポリと、大量の白濁液が溢れ出している。

大人びた美女の豊富な乳房はもちろん、ほとんど膨らんでいない蕾つぼみのようなお嬢様の幼気な胸にも、男たちの手指の跡が紅くクツキリ刻まれていた。肩や腰に辛うじて絡みついている制服は、あちこちが破れ、鉤裂きになり、陵辱の荒々しさを物語っている。

遠いグラウンドから、運動部の生徒たちの爽やかな声が微かに届く。別の階か、それとも中庭を挟んだ向かい側だろうか――少女たちの明るい笑い声も聞こえた。

それらに耳を澄ませていた金髪狐目の青年・三浦（ウイル）（ウイール） 按針が、傍にあつた椅子を引き、うしろ向きにして跨またいだ。組んだ腕を背もたれに乗せ、

「……そろそろ答を聞かせていただきますしうか」

「輪姦されるのがイヤならそうでしょうけど、でももし、好きだったら？」

「宇佐美さん、すごくエッチな声で鳴くんですってね。男子が言っていましたよ」

「あ、ひよつとして……オチンチンが欲しくなって、夜まで待ちきれず、毎晩気持ちいい思いをしているココでこっそりオナニーするつもりだったとか」

少女たちが追い討ちをかける。

愕然とした美人参謀は——しかし、反論できなかつた。

(このコたち、知っている……? 黒山羊教徒はみんな、私が毎晩、ココでどんなことをされているか……全部、知って、いる……?)

恥辱に赤らむうなじに、恐怖に粟立あわだった柔肌——恥辱の記憶が蘇る。

首筋に吹きかかる熱い鼻息、頬を這い回る生臭い舌。

乳房に喰い込む武骨な指。膣や尻穴、あるいは喉といった繊細な肉穴を、グチユリグチユリと貫き抉る、太くて熱くて硬い、猛々しい淫棒——。

思い出したくないが、忘れられない。忘れられるわけではない。

身体がしつかり覚えてしまった。

(イヤ……イヤ、イヤ……ッ!)

黒山羊教徒の協力をより強固なものにするため、と按針に囁かれたときは、どうせすでに穢れた身、と半ば自棄になって頷いたのだが。

月曜日の夜、初めてココで輪姦されたときには、錯乱しかけた。社会科準備室でお嬢様とともに処女を失ったときの記憶が、生々しく蘇ったからだ。

もちろん、赦してはもらえなかった。

泣いて赦しを乞う顔に生臭くて熱い精液をぶっかけられ、長く艶やかな黒髪にも白濁液をビュクリビュクリと浴びせられ——いやらしく笑う男たちに見守られつつ、精液混じりの汚物を排泄したり。左右から突きつけられた男根を顔の前でしごき、大きく開いた口で迸る射精を受けさせられたり——。

月、火、水と三夜続けざまに体験したが、少しも慣れた感じはしない。お嬢様を生徒会長にするためにはどうしても必要なことだと、どんなに自分に言い聞かせても、心は完全に拒否している——のに。

(おい、し、そう……)

竹千代のオチンチンがあまりにも魅力的で、性行為に対する嫌悪感^{けんおかん}などどこかに吹き飛んでしまう。幼気な美少年の《カリスマ性》は、それほどまでに強力なのだ。

「どうしたの、宇佐美さん……あ、竹千代クンのオチンチンをおしやぶりたいの？」

「ちようどよかったわ。私たち、貴女のフェラを見てみたいの」

「なにも意地悪で言っているのではないのよ。私たちが男のコの性欲を少しでも解消できれば、貴女にかかる負担を減らせるでしょう？」

「そ……そう……ね」

少女たちの囁きに、ぼんやり頷く定満。

だが、本当はなにも理解していない。

（欲しい……欲しい！ 竹千代くんが、欲しい！）

美少年の（カリスマ性）に絡め取られて、それ以外のことは考えられない。

欲望に衝き動かされるまま、美味しそうなペニスに顔を近づける。

「な、なにをするの？ ダメ、ダメダメ……汚いよおっ!？」

怯える少年に上目遣いで微笑みかけつつ、包茎ペニスの尖端を、伸ばした舌先で――。

レチョッ!

「うくう……ッ!？」

雷に打たれたように反り返る竹千代。たちまち紅く染まる幼気な頬は、どこからどう見ても女の口。真上に突き出された胸に乳房の膨らみがないことが不思議なくらいだ。

（か、可愛い……！ もつともつと、よがらせてみたい！）

もうダメだ、やめられない。焦る指先で美少年の腰に手を伸ばし、辛うじて絡みついて
いる純白のシヨーツを掴む。

「ああダメ、ダメえ！」

羞じらいもがく少年を無視して薄布を引っ張り、白くて細い脚から引き抜いた。まだ青

い桃のような小さな尻が、濡れたタイルの床にポテッと音を立てて落ちる。

「まずはどうするの？ やっぱり皮を剥くの？」

興味津々の顔で訊いてくる少女に、

「もちろん……でも、いきなり手で剥いてはダメ。オチンチンは繊細だから。先つちよを頬張って、この皮の縁を舌でレロレロして、優しく剥いてあげるのよ」

定滴は面倒そうに応えた。

（そんなこと、少し考えれば分かるでしょう！）

早く啜くわえたい、早くしゃぶりたい——逸はる気持ちを抑えて、口を大きく開く。

軋きむほどに勃起している包茎ペニスの先端に、ゆっくり顔を近づけて——アモツ！

「ほにや……っ!!」

美少年が驚いたのは一瞬だけ。

熱く柔らかくてヌルヌルとした美女の口唇粘膜に、敏感なオチンチンをぬつちより包み込まれたのだから、

「はにや、ほにやああ……」

羞恥に強張っていた頬がふわつと蕩けた。涙に濡れた瞳がみるみるうちに焦点しょうてんを失い、心地よさそうにゆら、ゆら、と揺らぎ始める。

（お、オチンチンが……ヘン……熱い、重い……ズキズキする、大きくなる……なのにな

んだか、蕩けて、しまい……そう！

恍惚とした竹千代の肌に、ふつ、ふつ、と芳しい汗かぐわの粒が浮き始めた。中性的なフェロモンをたっぷりと含んだ、妖しい汗だ。匂いを吸い込んだだけなのに、周りの少女たちはたちまち酔ってしまう。

「お、美味し、そう……」

——ぬちゅ！

「あんツ!? や、やだあ！」

うなじを舐められ、ビクツと首を竦める男の娘。

だが、気持ち悪くはなかった。

(なぜ……どうして? ゾクゾク、しちやううう……!)

舐められた場所が気持ちイイ。生温かな唾液をれちよれちよと塗り広げられ、柔らかな唇を押し当てられてチュツチュツと吸われると、

「ふひ、ひ……あうう……」

弾ける快感に身体が震え、わななく唇から甘やかな吐息が溢れ出してしまう。

「可愛いお声! 竹千代クンって感じやすいのね。じゃあここは?」

「ふあっ!? ああ、だめえ……ダメエツ!」

手首を掴まれ、指をしゃぶられた。

そんなところで感じるはずはないのに、しなやかにくねる舌先で指の股を舐められると、手首から肘まで心地よく痺れる。窄めた唇に締め上げられ、ちゅじゅ、ちゅじゅ、と吸い立てられると、大人びた美女の温かくてヌチャヌチャした口にしゃぶられているオチンチンと同じような快感が、ほっそりとした指の先まで充満する。

真っ赤に染まった耳朶も、甘噛みされた。

膝や太腿にもぬちよりぬちよりと、少女たちの口唇が這い回る。

その股間には定満が、淫らに微笑む顔を埋め、ときどき上目遣いに美少年の顔色を窺いつつ、根元まで啜え込んだ幼気なペニスをムチュ、ムチュ、ちゅぱ！

「と、溶けちゃう……溶けちゃうううっ！ オチンチンが、オチンチンが……あひっ!! ああダメ、それ……ふあっ!! く、ううん……ッ!!」

美女の柔らかな手に陰囊が握られ、梅の種ほどの睾丸が袋の中でコリコリ摺りあわされた。激痛にも似た鋭い快感が輸精管を駆け抜け、熱いような冷たいような、不思議な感覚が男根に充満して——緩く捻れた淫茎はもちろん、温かくぬめる口唇粘膜に包まれた包茎の龟头まで、ミチチ、メキキ、と硬くなる。

さらに——。

「そう……あにやつ!! ああダメ、やめて……先は、先は……敏感なおっ！」

羞じらしいに啜り泣く竹千代を無視して、美女の舌がしなやかにくねった。尖らせた尖端

がコチョコチョコと集中的に攻めているのは、亀頭を締めつけている包皮の縁。

「つうあ!? や、ああ……ダメ、やめて……痛い！」

無理矢理捲り返されそうになった薄皮の縁に、鋭い痛みが走る。

しかし、それはすぐに薄れ——生まれて初めて感じる種類の、両手で激しく掻きむしりたいような熱い焦れつたさにすり替わっていく。淫肉と薄皮の間に生まれたわずかな隙間に、定満のねつとりとした唾液が滑り込んだのだ。

「へ、へん……オチンチンが……へんに、なるううっ！」

しなやかな髪を振り乱し、涙をこぼしてイヤイヤをする美少年。

その間も、淫棒の尖端に生じたこらえがたい疼きは、包皮を伝って亀頭全体に広がっていく。すでに滲んでいた牡エキスと混じり、十数年間溜まっていた濃密な恥垢を溶かして、グリスのような潤滑剤に。

「ふひ……ひ……あっ!? あ、あ……ああ——ッ！」

——ツルンッ!

美女の口に唾え込まれて温められ、ヌチャヌチャする唾液にふやけていた薄皮が、一気に剥けた。妖しく微笑んだ美人参謀が「ンぷは」と吐き出したソレは——湯剥きされたミニトマトのような、真っ赤な亀頭。

年齢からすればやや小さいが、一丁前にエラを張り出した美形の亀頭だ。たっぷり絡ん



だ唾液とジクジク滲んだ粘液に濡れて、淫らに輝いている。

「ひ……ひい、ひい……痛い、痛い痛い、痛いよおッ！」

生まれて初めて剥き身にされた淫肉がジンジンとして、幼気な少年が掠れた悲鳴をあげ悶える。小さな火花がパチパチと、亀頭のあちこちで弾けているような——燃える粘液がねっちよりと、オチンチンの先に貼りついてきたような——。

「大丈夫、痛いのは初めのうちだけよ」

「我慢しなさい、竹千代クン。大人になつたらみんな剥けるんだから」

意地悪く微笑んだ少女たちが、啜り泣く男の娘の顔に唇を寄せた。頬を伝う涙を舌で舐め取り、額に浮いた汗の滴をキスで拭う。同時に、白魚のような細指が何本も、メイド服に包まれた薄い胸の上で躍り、妖しくいやらしく蠢いて——ブラウスのボタンがひとつ、またひとつと外され、桜色に火照つた瑞々しい柔肌が露わにされる。

男にしても肉づきの薄い、あどけない胸だ。透き通るような美肌に華奢な肋骨がうっすらと浮き、上擦る呼吸に合わせて妖しい細波を打っている。

そして——艶めかしいピンク色に染まった、小さな小さな乳首。米粒より大きい小豆より小さな肉突起が、平らな尖端を健気に突き上げ、ぴくく、ぴくく、と震えている。

「あはっ！ 可愛い！ こんなに小さいのに、一丁前にコリコリしてるう！」

「やつ!? ああダメ、抓んじゃ……いやあ！」

白い指先に勃起乳首を抓まれた途端、脳天まで走り抜ける稲光いなびかりが弾けた。軽く引つ張られると痛いだけだが、パツと放されると爽やかな解放感が溢れ、

「はにやあ……」

涙に濡れた頬が思わず弛む。

敏感さを増した乳頭をソツと押さえられ、小刻みに弾くように責められると、

「あにや、にや、にやにやにやあ……ツ！」

左右の胸先に微弱電流が湧き起こり、頭の中が真っ白になって、羽交い締めはなまきりにされた細い身体がビクンビクンと跳ねてしまう——と。

ペニスの尖端にヌポツと覆い被さってくる、熱いぬめり。

大きく口を開けた定満が、一皮剥けて大人になったばかりの幼いオチンチンを、再びアモツと啜え込んだのだ。

「ふあう……ああ、オチンチンが……あひいっ！」

空気に撫でられただけでもジンジンしていた亀頭に、生温かく潤んだ柔らかな粘膜が、ぬちよつと密着。淫肉が燃え出しそうな激感に竹千代が薄い胸を反らし、喘ぐと、

——れちよ、ぬちゆ！

男根に埋め尽くされてほとんど余裕のない口の中で美女の舌がくねり、糸いとが縊よれたような裏筋や捲れた包皮が折り重なっているカリ首をしごくように舐め回す。

「く、う……ああつ！ また、あのときのように……」

震える膝の間で仰向いた氏康の頬が、羞恥にパァツと赤らんだ。二ヶ月前の水着大戦、イソギンチャクの化け物に襲われ、穴という穴を犯された恥辱の記憶が蘇ったのだろう。

(こんなこと、気持ち悪いだけ……なの、にい……!)

指先のような感触に群がられ、揉みまくられた尻穴が、じんわり熱くなってくる。眉間に皺を寄せ、唇を噛んで、懸命に拒んでいるつもりなのに、執拗な愛撫に括約筋が蕩け、気を抜くと甘い吐息が溢れそうになる。

「催淫液ですわ、氏康さん！ こんなこと、気持ちイイわけ……ない、でしょう！」

「そ、そんなこと……分かってますわ……ン？ あ……ッ!!」

いつも自分勝手な義元にしては珍しく他人を励ますようなことを言ったな、と首をねじ曲げて見遣れば——太い触手に羽交い締めにされた金髪のお嬢様は、膝裏を掬われて大股開きを強要されていた。いつの間に下着をむしり取られたのか、捲れたミニスカートの下に栗色の淡い茂みと、ほんのり桜色に上気した柔らかな肉畝が丸見えになっている。

大人っぽいとも言いきれず、かといって赤ちゃんのようにには幼くない、思春期の割れ目、それがパツクリ開いているのは、太腿を這い登った細い触手に肉畝の縁を引っかけられ、これでもかと言わんばかりに左右に拡げられているから。

「よ、義元さん、貴女……」

「あ……ああ、見ないで、見ないでええっ！」

イヤイヤと首を振る金髪のお嬢様のソレは、すでに紅くヌラヌラとして、透明な滴を垂らしていた。あられもなく咲きこぼれた粘膜炎花弁は燃えるように紅く、縁が妖しく波打つていて、まるで、まるで——水飴スイアムの壺から引き出したカトレアのよう。

二ヶ月前の水着大戦のあと、聖ジョウント学園の天草（茜）四郎がスカトロに興味を持つてしまったように、義元は密かにオナニストになっていた。生まれつき感じやすい場所を、ヒマさえあれば弄っていた結果——。

「くうっ!? あん……ああっ！」

小指ほどの太さの触手に縁をピトピトされただけで、弾けるような快感に打ち抜かれる。羽交い締めにされた細い身体をくねらせ、豊満な乳房を激しく揺らして、

「催淫液、催淫液のせいなのよおッ！」

宙に浮いて前方に迫り出した股間を、おねだりするようにカクンカクンカクン！

「なんて浅ましい……貴女、肉便女とやらになったほうが幸せでなくて？」

「くっ?! うう……そ、そういう氏康さんこそ、なんなのよソレは!!」

耳の先まで真っ赤になった義元が睨みつけたのは、仰向いてポツカリと口を開けた氏康の尻穴。括約筋をトロトロになるまで揉み解された結果、自然に弛んでしまったのだ。

「そんなに大きく開くなら、だれのオチンチンでも榮々受け入れられますわね。貴女こそ、

肉便女に相応し……いつ!! ああダメ、ダメダメ、そこは……あああつ!!」

グチュチュツ!

金髪のお嬢様の膣穴に、肉イボを生やした触手が勢いよく潜り込んだ。突き進む亀頭に膣壁が押し潰され、胎内に甘い痺れが湧き起こる。淫茎のイボイボに次々と弾かれた壺口には稲光のような快感が絶え間なく弾け、大きくハの字に開かれたほつそりとした美脚が爪先までピーンと伸びて、内側を向いた膝がプルプル震える。

(あ、あ……私の中に、入って、くるう……ツ!)

はね上がった顔が恥辱に歪み——快感に弛む。コリコリとした小さな塊に膣口を弾かれるたび、心地よい波紋が膣洞に反響、秘裂に溢れて、わななく唇から「ああ、ああ」とはしたない声が漏れてしまう。

義元の恥ずかしい姿を見上げる氏康も、いい気味などと笑ってはいらなかった。

「くう、ああ……お尻は、イヤアああつ!」

鳴き声は無視され、太くて硬くて長い触手が蕩けた肛門を押し分け、力強くうねりながら潜り込んでくる。押し上げられる直腸、肛悦に痺れてしまう尻房——恥辱と快感に羞じらい、頬を赤らめて「ふう、はあ……」と喘いでいると、生温かなブヨブヨに押しさえつけられていた身体が、いきなりグルンと回された。

「きやうンツ!!」

厳めしい触手に尻穴を貫かれたまま、四つん這いを強制される糸目のお嬢様。

(こ、こんなモノに、犯されることだけでも、屈辱的なのに……!)

触手に絡みつかれた手足が、思うように動かせない。悔しい、恥ずかしい、と齒噛みしているのに、スカートの捲れ返った尻を浮き上がらせた犬のような姿勢に——と。

「うう? ……あつ?! よ、義元さん!!」

羞じらう頬に生温かな吐息を感じ、ハツと顔を上げると、頬が擦れそうなほどすぐ近くにあうあうと喘ぐ義元の顔があつた。膣を貫かれた彼女も、絡みつく肉紐に手足を操られて、恥辱のポーズをとらされていたのだ。

ふたりの姿はまるで——瑞々しい桃尻を突き上げ、赤らんだ頬を摺りあわせるようにして、甘い吐息を交わしあう二匹の牝犬。

「い、いやらしいお顔、ですわね、氏康さん……お、お尻がそんなに、気持ちイイ……のですか……ううッ!? は……ううう……ンッ!」

「そんな声を出して……あうンッ! よ、よくも、ヒトのことが……ああ、ああッ!」

「私は、いいの……だつてオマ○コだけでなく、ウンチの穴も……く、ああうっ!」

赤らんだ頬を氏康のうなじに擦りつけるようにしながら、義元が悩ましい声で鳴き始めた。ぐぼちゅ、ぐぼちゅ、ぐぼちゅ——と、肉イボを生やした太い触手に膣と尻穴を同時に抉られ、淫悦を産みつけられているのだ。

「ちよ……ちよつと、義元さん!? しつかりしなさいッ!」

「だつてえ……だつて、だつてだつてだつてええッ!」

法悦ほうえつの涙をこぼし、駄々つ子のように身体を揺するお嬢様の柔肌には、大小さまざまな触手が絡みついていて。シャツの中に潜り込んだ肉紐が弾む乳房に絡みつき、瑞々しい柔肌に硬い肉瘤を押しつけてムギユ、ムギユ、と揉み込んでいる。

(き、気持ち、イイ……オッパイが、蕩けてしまい、そう……ッ!)

胸の悦びに喘ぐ義元が、頬を弛めてうっとりしていると——カプッ!

「ひうッ!? あひ……ひいっ!」

いきなり股間に凄まじい快感が弾け、たまらず顔をはね上げた。快楽神経の塊であるクリトリスが、細い触手の尖端に開いた小さな口に甘噛みされたのだ。

「ひい、ひい……ピンピン、するううっ!」

走り抜ける電流に打ち抜かれ、鋭く痙攣けいれんするお嬢様。ピーンと伸びた腕の間で形よい巨乳が弾み——シャツのボタンが重みに負けて、プチプチとちぎれ飛んだ。揺れながらこぼれ出る双球、擦れあう乳谷、シャツの残骸ざんがいにサツと撫で上げられる乳房の側面——。

触手に絡みつかれたブラジャーが、揺れる乳房からずり上げられる。ぷるるん! と飛び出したふたつの丸みが、まっすぐ伸ばした腕の間で瑞々しく輝く。

「ふあ……ああああ……」



この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

仙獄学艶戦姫

ノブナガツ! comic



信長が、秀吉が、義元が、エツチにバトルにと漫画で大活躍！
もうひとつの『仙獄学艶戦姫ノブナガツ!』がここにある!!

待たせたら

毎月中旬
発売!!

18歳未満の方は
購入できません

18

漫画：老眼
原作：斐芝嘉和
キャラクター原案：SAIPACO

戦うヒロインが屈服させられちゃうアンソロジーコミックス
『闘神艶戯』偶数号にて連載中!

編集・発行 キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコビル TEL:03-3555-3431 (販売) FAX:03-3551-1208

<http://ktcom.jp/>

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル / 毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価 / 本体690円(税込)



全国書店で
好評
発売中

【小説】高井村正 / 挿絵：或十せねが

「セクシー退魔師が神様をご奉仕で鎮める伝奇アクション!」



全国書店で
好評
発売中

【小説】狩野景 / 挿絵：ぼち」

「不死者を滅ぼす白刃が舞い踊る! ちょっぴりマッドな聖女様が学園を舞台に大暴れ!!」



【小説】羽沢向 / 挿絵：ピエール☆おじお

「魔法の天使ルルイエ・ルル! 地球の未来はルルにおまかせよっ☆」

全国書店で
好評
発売中

既刊LINEUP

全国書店で好評発売中

- 山梨学園戦姫ノブナガ! ①～③
- 思春期のなアダム ①～②
- 純情! 帝少女探偵団、赤い探路を撃て!

- 借金お嬢クリス ①～②
- プリンセスリバー!! 交響する美神と魔境
- BLANGEL 絶になつて踊る患者の夜

- 無敵の姫騎士が外・Mに目覚めたようです
- ピルグリムメイデン 深紅の巡礼聖女



あとみっく文庫

既刊情報

仙獄学艶戦姫ノブナガツ!

第一次水着大戦

超能力者の少年少女たちが集う特殊な学園——西開学園、北宮学園、聖ジョウント学園。それぞれが仙獄島の覇権を求め、ちょっとHな三つ巴バトルの幕が開ける!! 平和なはずのミスコン勝負は、暗殺騒動が起きたり水着美少女が縄で緊縛されたり触手生物が現れたりで、とんでもない方向に進んで——!?

小説●斐芝嘉和
挿絵●SAIPACo.

全国書店で
好評
発売中

仙獄学艶戦姫ノブナガツ! 弐

北宮学園生徒会長選挙戦

絶対的な権力を誇る北宮学園の生徒会長の座を競い、義元、氏康、晴信ら北宮三大美女はもちろんのこと、長尾く美姫>景虎、宇佐美く奈々>定満といった新ヒロインも加わり、エッチにバトルを繰り広げる!! 敗北したヒロインは勝者の奴隷に!?

小説●斐芝嘉和
挿絵●SAIPACo.

全国書店で
好評
発売中

詳しくはKTCの
オフィシャルサイトで <http://ktcom.jp/>



仙獄学艶戦姫ノブナガツ!

信玄、出陣!

北宮学園の生徒会長選挙戦も大詰め。肉欲に堕ちた義元と氏康を従えた景虎は、更なる戦力の拡大を図る。そんな中、信玄は元凶である按針を倒そうと信長に協力を求め、聖ジョウントのエリザは封印された化け物を発見する。様々な思惑が交錯する物語は佳境を迎え、信長は姦落の危機に陥るのだが!?

小説●**斐芝嘉和**
挿絵●**SAIPACo.**



全国書店で
**好評
発売中**

BLANGEL

輪になりて踊る患者の夜

月下の街を紅に染め上げる、鮮血のサスペンスアクションの幕が上がる! 吸血姫アリシアは異形の生物「被験体」の影を追って戦い続けるが、予想もしない反撃に遭って虜囚の辱めに晒されてしまう!! 『隔月刊コミックヴァルキリー』の長期連載人気漫画が待望の小説化!

小説●**夜士郎**
原作・挿絵●**渡瀬行人**



全国書店で
**好評
発売中**



思春期なアダム

謎の少年ルシアの手で“蛇眼”の力に覚醒した藤田陸月。世界の半分を支配する秘密を秘めた彼をめぐり、天使と悪魔そして人間による争奪戦が始まった！ ごく普通な少年の日常は一変し、美少女天使のエンジュや憧れの同級生伊部草マキナまで巻き込み、激しくそしてエッチに胎動する！

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
**好評
発売中**

思春期なアダム 2

背後をならう者

「世界の半分を支配する力」を秘めた“蛇眼”の持ち主として、天使たちに保護されたごく普通の少年、陸月。それでも普段通りの学園生活を送る彼の前に、新たな刺客が現れる…。天使・悪魔・人間の三つどもえのバトルはより過熱！ “蛇眼”をめぐり迫り来る美女に美少女&美少年(!?)たちの誘惑で、陸月も新たな局面に…?

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
**好評
発売中**



借金お嬢クリス

42兆円耳を揃えて返してやりますわ

異世界の住人・ジグレットの奸計で父を失い、突如無一文となった令嬢クリス。なんとその借金額は42兆円! クリスは借金取り立てに現れた武装精霊ガーランドの力を借り、ジグレットへ借金返済の戦いを挑むことに! 果たして、傲岸不遜な令嬢はセレブな日常を取り戻し、己の貞操を守ることができるのか!?

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で
好評
発売中

借金お嬢クリス2

42兆円踏み倒してやりますわ

セレブから無一文に転落したクリスは、借金を返すために今日もバイト&バトル!? 水着コンテストで痴態を晒し、工事現場で肉体労働&ガーランドからの肉体調教と、八面六臂の活躍(?)に加え、ライバルのロリ令嬢、サキも加わり、エッチ&借金バトルはより熱く燃え上がる!

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で
好評
発売中

コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト <http://ktcom.jp/>



title:

ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』

トキサナ

『DSの流儀』

chaccu

『生徒会長前哨戦?』

天道まさえ

title:

発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉



電子書籍版もあります!

各種ダウンロードサイトにて発売中! ※18歳未満の方は購入できません。

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

<http://ktcom.jp/>

- 雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- 二次元ドリームマガジン・コミックアンリアルの**バックナンバー**も買えるよ!
- ジャンル別**で作品も選べて超便利!
- 二次元編集部**の愉快的Blog**も更新中!



KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!